

英語科学習指導案

日 時	平成29年11月21日(火) 6校時
場 所	一関第一高等学校附属中学校
学 級	3年1組(男子20名 女子20名)
指導者	教諭 右京久里子

1 単元名 Project3 ディスカッションをしよう

2 指導目標

ディベートを通して、様々な意見や考えを共有すると同時に、身近な消費者問題及び社会課題の解決や、公正な社会の形成について考える力を育む。

3 評価規準

【外国語表現の能力】

- ・データに基づいて、適切な意見を述べながらディベートを行うことができる。

4 指導の構想

中学校学習指導要領解説外国語編においては、自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で語彙や文構造を活用する力などの育成を重視した指導が求められている。本校においても、中高一貫校という特徴を生かし、既習表現等を活用したり、「聞くこと」、「読むこと」から得た知識を自らの体験に関連付けたりしながら、「話すこと」や「書くこと」の学習活動を重視することを中高共通の授業づくりの視点としている。

本単元は、「話すこと」の指導に主眼を置き、ディベートを通して論理的に説明する力やデータに基づいて正確で的確な意見を述べる力をつけることを目的とし、年間指導計画に位置付けた単元である。また、高校生との合同授業でディベートを扱うことで、よりハイレベルなディベートに触れることができることをメリットと考え、年間で複数回の小単元を位置付けている。

「話すこと」の指導においては、予め原稿を準備してから話す活動とその場で考えて即興で話す活動がある。前者は、表現の正確さをねらいとし、後者は表現の適切さをねらいとしているが、実生活において、英語が使えるようになるためには、両者のバランスを考慮した指導が必要である。

本単元は、表現の適切さに重きを置き、身に付けさせたい力として、「データに基づいて、適切な意見を述べながらディベートを行うことができる」ことをねらっている。

本時の授業は、ディベートの議題に身近な消費者問題や社会課題を設定し、その中で公正な社会の形成について考える内容である。また、自分の考えとは異なる立場に立ちディベートを行うことで、様々な視点から問題に向き合うことができ、公正な立場で考えをまとめることができるようになることをねらいとしている。

そのため、ディベート後にはその議題に対するレポートの提出を求めており、その論文を改めて読み合うことで、目標達成に近づくことができると考えた。

5 本時の展開

段階	学習内容 及び 学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1. リラックスして自分の考えを述べるができるよう、1分間チャットを行う。 2. 本時の議題を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; text-align: center;"> Japanese should eat food made in Japan. </div> 3. 本時の評価を確認する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> データに基づいて、適切な意見を述べながらディベートを行うことができる。 </div>	・より具体的に、途切れることなく会話できるよう、チャットの目標を示す。 ・データを示すときにタブレットを使用させる。 ・個人的な見解に偏らず、一般的な意見を述べるよう意識させる。
展開 40分	4. ディベートを行う。 ・ 8人1グループで行う。 ・ 同じ議題で2回ディベートを行う。 ・ 4人が「司会」「タイムキーパー」「ジャッジ」を行い、もう一方の4人が2対2でディベートを行う。	・全員がディベートを行うよう、時間配分に気を付けさせる。 ・ジャッジ基準は、本時の評価に基づいているかで判断する。
終末 5分	5. 考えを共有する。 ・ 評価を達成させるために意識したことを共有する。 ・ 次時のディベートをさらによりよいものにするための工夫を共有する。 6. 宿題の提示をする。 ・ 本時の議題に対する自分の考えを、ディベートを通して考えたこともふまえて、100語程度でレポートを書く。	・様々な考えから、次に生かすことができるのは何か取捨選択しながら聞かせる。

[ディベートを扱った授業について]

- 9月 「司会」「タイムキーパー」「ジャッジ」ができるようになる
- 10月 高校生のディベートから学ぶ
- 11月 データに基づいて、正確で的確な意見を述べながらディベートを行うことができる
 議題 ①日本のレストランはお客さんがチップを払うことを認めるべきである。
 ②日本のレストランはドギーバッグを常備すべきである。
 ③日本人は日本産の農作物を使ったものを食べるべきである。
- 12月 高校生にジャッジをしてもらう ・ アドバイスを受ける
- 1月 高校生と共にディベートを行う